

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4292200062		
法人名	社会福祉法人 岐宿園		
事業所名	グループホーム 岐宿園 菜の花		
所在地	長崎県五島市上大津町596番地1		
自己評価作成日	令和5年11月18日	評価結果市町村受理日	令和6年3月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和5年12月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・アットホームな雰囲気です。自宅に近い環境で過ごして頂いている。 ・各部屋に水洗トイレ、洗面台があり、ご自分のペースで日常生活を過ごすことができ、介護や看護が必要な時は、24時間体制で対応している。 ・入居者様同士が仲良く住みやすい環境で過ごすことができる。 ・催し物や行事により、非日常を体験して楽しんで頂いている。 ・運動を取り入れ、ADL低下・認知機能低下予防に努めている。 ・看取りはできないが出来る限り園での生活を楽しんで頂いている。 ・入居者様と職員で力を合わせて、暮らしやすい環境を整えていくことを目標としている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念にある“一人ひとりに合った介護サービス”を提供するために、利用者の生活歴を毎年更新し、人となりを詳しく知ること、個別性のある生活支援に繋げている。運営推進会議はコロナ禍により書面会議であるが、外部評価の気づきを議題に上げ、真摯に改善に向けて取り組む様子が詳細な議事録から確認できる。また、敬老会前には全家族に活動内容を伝え、多くの意見を聴取しサービスの向上に繋げている。毎月、身体拘束適正化の為に委員会を開催し、委員を中心に日々の支援態度や言葉遣い等、丁寧に評価検討し、全職員の課題として捉え改善へと導いている。週3回の入浴は、利用者との会話の場であり、癒しのひと時となっている。リビングでお喋りを楽しんだり、歩行訓練を行ったり、趣味の編物を続けるなど思い思いに過ごす様子がある。職員のチームワークも良く、理念の具現化に取り組んでいる事業所である。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない

グループホーム岐宿園 菜の花
自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「岐宿園の理念」「職員の目標」「コミュニケーションの基本姿勢」朝礼にて唱和し、実践に繋げている。	理念を具体化した“職員の目標”“コミュニケーションの基本姿勢”を朝礼にて唱和し、特にその中の接遇改善に努めている。職員は、ゆっくりと優しい声で声掛けし、利用者との対話を大切にしており、本人本位の生活が安心してできるよう、職員共有して、理念の実践に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	本年度は福江祭りの炎上太鼓を招くことができ、祭りの花火をデイサービスの窓から楽しむことが出来ました。	自治会加入はないものの、法人の評議員や元民生委員から地域のイベント等の情報を得ている。法人は五島祭りに協賛しており、炎上太鼓を招待し、利用者は楽しんでいる。近隣とは、利用者が花壇の水やりの際の挨拶したり、離設する利用者の見守り等の交流がある。今後は感染状況を見極め、ボランティア受入れ再開を検討している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所は利用者様のご家族や知人の方・施設見学の方にグループホームの理解や認知症について説明等を行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者の状況、行事の報告を行っている。職員が講師を務め、感染症や身体拘束・虐待などの勉強会を行い、会議での委員の皆様よりの意見をサービスに活かしている。コロナ禍で郵送のみの現状報告を行っているが意見を求め、返信用封筒を投函して頂き、活用させて頂いている。	コロナ禍により、書面会議を年6回開催している。外部評価の気づきから、看取りや事故報告、身体拘束や面会等、議題は多岐にわたり、真摯に取り組む様子が詳細な議事録から確認できる。議事録は委員に送り、言葉掛けについて提案があり、話し合いに繋がっている。敬老会前には、家族全員に送付し、意見を募っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の職員の方が運営推進会議に参加してくださっているがコロナ禍で郵送やメールにて現状報告を行っている。介護保険の手続き・権利擁護の申請の件などは本所に行き、顔なじみとなり相談できる関係作りができています。	介護保険の更新手続きや権利擁護の申請や事故報告等、担当窓口へ出向いている。市担当課の訪問もある。市には事業所の現状を報告し、意見を貰う等、協力関係を築くよう取り組んでおり、市から案内がある研修に職員が参加している。事務長は、商工会議所青年部に所属し、市職員とは顔馴染みであり、協働に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の研修会を行っている。朝礼時、事故報告・ヒヤリハット等の報告を行い、対策を行っている。やむを得ず身体拘束を行う場合、ご家族に必ず説明・同意を得た上で出来る限り最小限に努めている。毎月身体拘束廃止委員会が開かれ12日の全体ミーティングで各棟委員会が発表していたがコロナ禍にて議事録として回覧している。	身体拘束等の適性化のための指針を整備しており、毎月、身体拘束委員会を中心に委員会を開き、2ヶ月毎の運営推進会議で報告している。職員が自己申告した支援態度や言葉遣いを、詳細にまとめ、事例検討し職員に周知している。法人内研修を1回開催し、年度末に1回予定しており、拘束のない支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会を行い、全職員が知識と理解を深め、虐待防止に取り組んでいる。虐待をよく理解し、一人ひとりに合ったケアを目指して言葉遣いや優しく接するということに心掛けている。また、職員がストレスを溜めないよう対処法も研修している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は法人全体で講師を招いて研修会を開いたこともあったが実際に利用者様が成年後見制度を利用されることで権利擁護に関する制度を理解し、活用するよう勧めている。成年後見制度を利用される利用者様も増えてきました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、重要事項説明書に則り、ご利用者やご家族のかたに見学と共に十分な説明を行い理解・納得して頂き同意を得て契約している。改定の際は、運営推進会議での報告、ご家族様に通知、同意書を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やご家族の面会時・ケアプランの説明時に、ご本人やご家族に事業所に対する気付きがないか聞くようにし、連絡ノートに記入、職員間で共有している。また、毎年敬老会で意見箱を設置し、ご家族を含め来園の方々に投函して頂いていましたが運営推進会議での報告を郵送とし返信用にて意見を求め投函して頂いている。	コロナ禍以前は、敬老会に家族を招待し年間の取組を紙面にし伝え、その際、意見箱を回し要望を聞き取っていたが、今年度は開催できていない。家族とは直接話したり、電話で連絡を取っている。毎月利用者の様子を記載した便りは、「意見を遠慮なくお申しつけ下さい」と結び、要望を伝えやすい雰囲気づくりに留意している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティング時に意見・提案を出し合っている。また、個人面接など行い職員の意見を聞くよう心掛けている。各ユニットの主任を通し、意見を伝えて貰っている。	日常では、計画作成担当者が職員に不明点等がないか声を掛けている。毎月、ユニット毎に全員参加の会議を開き、予定の行事やヒヤリハット事例について話し合っている。職員から事務長に電気製品購入の要望を直接伝えることもある。また、理事長との個人面談があり、職員から直接話を聞く機会を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績、勤務状況を把握し働きやすい職場作りに職務の意識を高めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で出来ないが外部の研修会案内を回覧し、参加を促している。不公平のないよう、偏りのないよう努めている。法人内で年間職員研修計画を立て、月1回行っている。コロナ禍により、リモートでの研修も行われた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の研修に参加し、交流を図っていた。全体的には難しいが個人で同業者の方と知り合いになり、お互いの情報交換(守秘義務以外)をしあい知識を高めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の情報収集をできるだけ行い、職員が情報を共有、ご本人様の心に寄り添い、要望に耳を傾け、不安感をできる限り取り除き、信頼関係を築くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族等困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、安心して預けるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の要望をお聞きした上でご本人の状況を把握し「今、何が必要か」を見極め支援をしている。他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人にご自分で出来ることはして頂き、またはお手伝い(タオルたたみ・新聞折り等)をして頂き、その上で見守り・介助に努め、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月初めご家族様宛に、園での様子や健康状態を書いた手紙を職員が手書き、本人様の近況を代弁し、ご家族とご本人との絆が深まるよう心掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前から通っていた美容院や・かかりつけの病院などに行けるようにしている。また、お客様に来て頂いたことへの感謝の言葉や挨拶を大切にしている。	職員は、家族の訪問時には温かく迎えている。白寿の祝いには、多数の親族が訪れている。また、神父の訪問もある。職員は、入居時のアセスメントで、生活歴や趣味を把握し、趣味の編み物や植木の手入れを続けている人、新聞を購読している人がいる。家族からの年賀状には本人が返事を出し、馴染みの関係継続に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶の時間(10時・15時)には声かけて、できるだけフロアに来て頂き、皆様に楽しい時間が共有できるよう努めている。居室で過ごしたい方は居室へお茶等運んでいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院してからの退所が殆どであるが退所後ご本人やご家族のご要望があれば同法人の有料老人ホームに転所して頂いている。身近に頼れる方がいない場合など支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話・情報等から思いや意向の把握に努め「申し送りノート」に記入して、職員間で共有、思いや意向を叶えるように努力している。また、サービス計画作成時でのモニタリング等にて、要望・意見などをお聞きしサービスに反映させている。	難聴の利用者には、耳元で話し掛けている。利用者との会話で聞き取った髭剃りをしたい、法事に行きたい、夜テレビを見たい等の要望や思いは、その場で検討しており、申し送りノートに記載して共有を図っている。利用者の思いは1年毎にアセスメントシートに転記し、最新の情報に更新して支援に役立てている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の情報・基本情報・看護サマリー等、ご本人・ご家族の意向をお聞きした上で見守り・介助を行っている。評価表を作り経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活パターンを把握し、出来るところを見極めながら、自立に向けた支援を行っている。小さな変化も気付けるよう職員間で情報を共有し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に一度介護計画書の見直しを行い、ご本人・ご家族に説明し、同意・署名をして頂いている。介護計画書には、ご本人・ご家族・担当介護職員・看護師・その他職員の共同と医療の記録・介護記録等から課題を導き出し、介護計画書を作成している。	利用者の思いは、日々の言葉や様子から察し、家族の思いは、面会時や電話、手紙で聞き取り、介護計画に反映している。モニタリング、アセスメントは3ヶ月毎に実施し、各棟ミーティングにて、職員間で検討している。大きく状況が変わる時は都度見直している。介護計画は詳細であり、本人・家族の同意を得て実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様個別のファイルを作成している。バイタル表に体温・血圧・脈拍・食事・排泄回数・入浴・NS処置・水分補給量・睡眠状況・医療指示記録・経過観察などの記録を職員間で情報を共有し、実践や介護計画書の見直し等に活用している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助や買い物、ご本人の要望による外出など必要に応じ柔軟に対応するよう努力している。コロナ禍でなかなか対応できないことも多かったように思います。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年2回(9月・3月)の消防訓練に消防署と中村防災の協力を得て行っている。地域の行事参加はできませんでしたが炎上太鼓を招いたり祭りの花火を皆(施設の窓から)で見ることができました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医療機関に継続して受診出来るようにし、医療との連携を図っている。体力や状況によって往診のできる協力医療機関に変更して頂くこともある。結果も手紙・面会時・電話等で、ご家族にお知らせしている。	本人・家族の意向を尊重し、入居前のかかりつけ医を継続している。他科も含め、受診は職員や看護職員が同行しており、受診結果は家族へ伝え、医療支持記録にて職員共有している。入院等、利用者の状態により月1回の訪問診療や他の医療機関への変更もある。夜間待機看護師のオンコール体制があり、適切に整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、ご利用者に異常があった場合、昼夜問わず看護職員に報告し、対応して貰っている。毎日バイタルサインのチェックを行い、異常の早期発見に努め、24時間体制で看護職員に報告・相談し、適切な医療が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の医療機関へ看護サマリー等情報提供を行い、病状説明を家族と一緒に聞かようにしている。また、日頃の様子を詳しく病棟へ報告・不明な点はいつでも連絡をと伝えている(NS)。出来るだけ早期に退院できるように、病院関係者との関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に看取りや重度化した場合などのホームの方針を文章で明記し同意を得ている。状況変化の度に看護師が家族に状況説明を行い、話し合いを繰り返す中で重度化した場合の方針の統一を図っている。看護師と24時間連絡が取れる体制が整い、ご本人・ご家族・職員の安心に繋がっている。	契約時、事業所では医療体制が整っていない為、看取りは行わないことを説明し、“介護状態が重度化した場合の同意書”に本人・家族の同意を得ている。利用者の状況変化に伴い、主治医や看護職員、家族で話し合い、事業所で可能な限りの支援に努めている。職員研修を行っており、今後ビデオでの研修を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署に講師を依頼し、年1回救急救命の研修を実技を交えて行っていました。コロナ禍により出来ない状態の中で、急変の対応マニュアルがあり、敏速に動けるよう全職員が周知できるようにしている。なるべく早く看護師に連絡を取り、すぐに指示をもらっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	消防計画に基づき避難訓練を消防署・中村防災立ち合いのもと実施している。自然災害対策をしてマニュアルを作成、年1回見直している。備蓄も行っている。同法人の他の事業所との協力体制が整い、市の消防担当者とも日頃から連絡を取り合っている。防災のために毎日点検を行っている。連絡網では、迅速に伝わるようLINEを使用する。	今年度は設備会社協力の下、1回の夜間想定火災訓練を実施し、年度末に消防署立会いを予定している。事務長は消防団に属しており、有事の際の協力を呼び掛けている。LINEによる連絡網、備蓄、非常持出を整備し、日々火元を点検している。ただし、自然災害の訓練が未実施であり、勤務の都合で訓練に参加していない職員がいる。	昨今の自然災害の激甚化を踏まえ、命を守る為の、あらゆる自然災害を想定した訓練実施が望まれる。また、有事の際に落ち着いて適切な行動を取れるよう、参加経験のない職員の訓練参加が待たれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎日朝礼時に唱和する「岐宿園の理念」「職員の目標」「コミュニケーションの基本姿勢」の中に利用者様に対する接し方が盛り込まれ、接遇改善に努めている。個人情報の取り扱いについて入所時に同意書を頂いている。たま、フロアでの個人情報の取り扱いに注意している。	委員会が主となり年間を通じて職員の言葉遣いについて注意喚起を行い、改善に繋がっている。排泄の介助は同性で行う他、申し送りは本人に聞こえないよう、羞恥心、自尊心に配慮している。写真等の取り扱いについては、家族から同意書を得ている。ただし、職員個人の携帯電話から家族にLINEを発信している。	LINEは、家族との連絡手段としては有用であるが、個人情報保護の観点から法人所有の機器を使用することが望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着替えの際などに、どの服がいいか選んで頂いたり、買い物や散歩など、ご本人の自己決定を大切に支援させて頂いているが職員不足やコロナ禍にて叶わないこともあるが理解して頂いている。利用者様との会話を大切に、自己決定の支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には一日の流れがあり、希望に添えないことがあっても、強制することなく一人ひとり心身の状況を把握、希望や自己決定を大切に要望に答えられるよう努め支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行き付けの美容院や床屋に行きカットや毛染めを希望されたり、園に来て頂いたりし、利用者さまの馴染みを大切にしていたがコロナ禍で変わってしまいました。施設に来て頂くか職員が声かけし、カットや坊主で対応しています。服装もできるだけ希望に沿うよう心掛け、本人様希望の衣類購入の買い物支援や誕生日プレゼントなども行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	令和4年7月1日の朝食より、クックデ이의介護施設用の料理済み材料で利用者様に食事の提供を行っております。食事の準備や片付けができるような利用者様がおられません。味も良く、何よりも柔らかいので歯がない方でもごぼうなど食して頂いております。	外部の配食サービスを利用し、主食と汁物を事業所で作っている。刻み、とろみ食にも対応している。誕生日はケーキで祝っている他、節分、雛祭り等、季節毎の菓子を味わっている。大晦日には年越し蕎麦を提供し、季節感を大切にしていることが窺える。おやつは職員が作り、食事が楽しいものとなるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	レトルトでの食材で栄養状態は管理されていますが利用者様の中には、少食・偏食の方がおられ、色々と工夫していますがなかなか食量やバランスの良い食事にはならず、病院からのエンシュア対応の方などもあられます。一人ひとり合った食事提供に心掛けています。一日分の水分摂取量を計っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ずその方に合った口腔ケア介助・確認を行っている。義歯は夕食後、洗浄剤を使用している。ご自分で口腔ケアをされる方は後で確認を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録を取り、排泄パターンを把握している。トイレの声かけ・誘導・介助、その方に合った介助を行い、習慣化する事で排泄の自立に向けた支援を行っている。出来るだけトイレ使用を心掛けている。	居室には、トイレと洗面所を備えており、プライバシー保護だけでなく、本人の負担軽減に繋がっている。トイレでの排泄を基本とし、おむつを使用している人はいない。職員は、排泄チェック表からパターンを把握しており、利用者の素振りから察するなど、適宜トイレに誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表に排便の有無・時間を記入し、排泄パターンを知り、排泄後は排尿・排便の確認を行っている。便秘の方には運動やお腹のマッサージ・水分補給を促している。便秘時は看護師に報告し、各自の便秘薬を出して貰っている。水分量もチェックしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴日は決まっているが一人ひとりの希望に出来るだけ沿った入浴時間帯にゆっくりと入浴して頂いている。特に冬場はどの方も浴槽にゆっくりつかって頂いている。場合によっては入浴日以外でも入浴ができるよう柔軟に対応している。	殆どの利用者は、週3回入浴を支援しており、全員が浴槽に浸かることができている。入浴を嫌がる利用者については、柔軟に対応している。足先のマッサージを行って喜ばれている他、入浴後には保湿剤等を塗り、乾燥しないよう配慮している。入浴日以外は更衣を支援し、清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンを大切に、休息・仮眠を取り、自由に過ごして頂いている。室内温度調節を行っており、気持ち良く安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の薬情を個人ファイルに綴り、いつでも確認出来るようにしている。服薬時は本人様確認を確実にマニュアル通りに行うようにしている。処方の変更等は通院・往診後、医療の記録で全職員が確認することになっている。利用者様の症状の変化の確認に努め、些細なことでも看護師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味や特技、楽しいことを把握し、生きがいを感じられる様な支援を心掛けている。洗濯物をたたんだり、カラオケ、散歩・レクリエーション等気分転換を図りながら楽しんで頂けるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今はまだ、コロナ禍で思うように行かないが希望があれば買い物はパオパオ号での購入や必要に応じ買い物支援を行っている。気分転換にドライブで花見を楽しんでいる。自宅に行きたい希望もあるが外出希望に答えられない状況がある。早く、買い物や外食に行けたらと思っています。	日常的に日光浴を兼ねて、植木に水やりを日課としている利用者がいる他、病院受診の行き帰りに車窓から景色を楽しんでいる人は多い。定期的に訪れる移動スーパーでは、職員が欲しいものを購入支援している。また、桜やコスモスの花見ドライブもあり、職員は利用者の気分転換を図ることの大切さを念頭に支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は預けて頂くのが基本であるが知らないうちに持たれている方や自己責任で所持している方がおられる。希望があれば職員が買ってきたり、パオパオ号で購入したりしている。コロナ禍が収まれば買い物ができることを楽しみにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分で携帯電話を所持し、家族や知人から電話があったり掛けたりしている。「電話を貸して下さい」と言われる利用者様や掛けて欲しいと言われる方は施設の電話を利用してもらっている。手紙のやり取りを支援することもある。。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアにはご利用者様の作品を展示したり、季節感のある飾り付けに心掛けている。共用の場も温度設定に気を付け居心地良く過ごして頂き、浴室や更衣の場の温度やトイレの便座の温度設定・換気には特に注意を払っている。	リビングは、家庭的な季節の飾りつけで温かみのある空間となっており、長い廊下は利用者の歩行訓練に利用している。お茶の時間は定位置に座り、皆でおしゃべりを楽しんでいる。看護職員指導のもと、二方向開放の換気や消毒の徹底、職員による清掃や温度管理で、清潔な環境で居心地よく過ごせるよう整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	菜の花は廊下にイスやソファを並べ、思い思いに座り、話をしたり、ラジオ体操をしたり、居室と廊下のイスとフロアの食卓を行ったり、来たりして過ごされていて、一人ではない空間を楽しまれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持って来て頂き、希望があれば模様替えやベッドの配置換えを行い、居心地良く過ごせるよう提案、本人様やご家族と相談している。(ストーブ・冷蔵庫以外持ち込み可)	居室は、馴染みの物を持ち込み、テレビや家族写真、置物がある。自室で食事したり、趣味の編物を楽しんでいる人もいる。布団の片付け等、本人本位の生活を自由に継続できるよう支援している。定期的なリネン交換や職員による清掃、空調管理で、感染症に配慮した清潔な居室となるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には名札がかかり自室が分かるように配慮し、床はバリアフリーでどこにでも手すりがあり、危険物は除き動きやすくしている。職員一同見守り強化し、怪我のないよう努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4292200062		
法人名	社会福祉法人 岐宿園		
事業所名	グループホーム 岐宿園 コスモス		
所在地	長崎県五島市上大津町596番地1		
自己評価作成日	令和5年11月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市市町5番5号HACビル内		
訪問調査日	令和 年 月 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・アットホームな雰囲気です。自宅に近い環境で過ごして頂いている。 ・各部屋に水洗トイレ、洗面台があり、ご自分のペースで日常生活を過ごすことができ、介護や看護が必要な時は、24時間体制で対応している。 ・入居者同士が仲良く住みやすい環境で過ごすことができる。 ・催し物や行事により、非日常を体験して楽しんで頂いている。 ・運動を取り入れ、ADL低下・認知機能低下予防に努めている。 ・看取りはできないが出来る限り園での生活を楽しんで頂いている。 ・入居者様と職員で力を合わせて、暮らしやすい環境を整えていくことを目標としている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「岐宿園の理念」「職員の目標」「コミュニケーションの基本姿勢」朝礼にて唱和し、実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	本年度は福江祭りの炎上太鼓を招くことができ、祭りの花火をデイサービスの窓から楽しむことが出来ました。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所は利用者様のご家族や知人の方・施設見学の方にグループホームの理解や認知症について説明等を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者の状況、行事の報告を行っている。職員が講師を務め、感染症や身体拘束・虐待などの勉強会を行い、会議での委員の皆様よりの意見をサービスに活かしている。コロナ禍で郵送のみの現状報告を行っているが意見を求め、返信用封筒を投函して頂き、活用させて頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の職員の方が運営推進会議に参加してくださっているがコロナ禍で郵送やメールにて現状報告を行っている。介護保険の手続き・権利擁護の申請の件などは本所に行き、顔なじみとなり相談できる関係作りができています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の研修会を行っている。朝礼時、事故報告・ヒヤリハット等の報告を行い、対策を行っている。やむを得ず身体拘束を行う場合、ご家族に必ず説明・同意を得た上で出来る限り最小限に努めている。毎月身体拘束廃止委員会が開かれ12日の全体ミーティングで各棟委員会が発表していたがコロナ禍にて議事録として回覧している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会を行い、全職員が知識と理解を深め、虐待防止に取り組んでいる。虐待をよく理解し、一人ひとりに合ったケアを目指して言葉遣いや優しく接するということに心掛けている。また、職員がストレスを溜めないよう対処法も研修している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は法人全体で講師を招いて研修会を開いたこともあったが実際に利用者様が成年後見制度を利用されることで権利擁護に関する制度を理解し、活用するよう勧めている。成年後見制度を利用される利用者様も増えてきました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、重要事項説明書に則り、ご利用者やご家族のかたに見学と共に十分な説明を行い理解・納得して頂き同意を得て契約している。改定の際は、運営推進会議での報告、ご家族様に通知、同意書を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やご家族の面会時・ケアプランの説明時に、ご本人やご家族に事業所に対する気付きがないか聞くようにし、連絡ノートに記入、職員間で共有している。また、毎年敬老会で意見箱を設置し、ご家族を含め来園の方々に投函して頂いていましたが運営推進会議での報告を郵送とし返信用にて意見を求め投函して頂いている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティング時に意見・提案を出し合っている。また、個人面接など行い職員の意見を聞くよう心掛けている。各ユニットの主任を通し、意見を伝えて貰っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績、勤務状況を把握し働きやすい職場作りに職務の意識を高めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で出来ないが外部の研修会案内を回覧し、参加を促している。不公平のないよう、偏りのないよう努めている。法人内で年間職員研修計画を立て、月1回行っている。コロナ禍により、リモートでの研修も行われた。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の研修に参加し、交流を図っていた。全体的には難しいが個人で同業者の方と知り合いになり、お互いの情報交換(守秘義務以外)をしあい知識を高めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の情報収集をできるだけ行い、職員が情報を共有、ご本人様の心に寄り添い、要望に耳を傾け、不安感をできる限り取り除き、信頼関係を築くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族等困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、安心して預けるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の要望をお聞きした上でご本人の状況を把握し「今、何が必要か」を見極め支援をしている。他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人にご自分で出来ることはして頂き、またはお手伝い(タオルたたみ・新聞折り等)をして頂き、その上で見守り・介助に努め、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月初めご家族様宛に、園での様子や健康状態を書いた手紙を職員が手書き、本人様の近況を代弁し、ご家族とご本人との絆が深まるよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前から通っていた美容院や・かかりつけの病院などに行けるようにしている。また、お客様に来て頂いたことへの感謝の言葉や挨拶を大切にしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶の時間(10時・15時)には声かけて、できるだけフロアに来て頂き、皆様で楽しい時間が共有できるよう努めている。居室で過ごしたい方は居室へお茶等運んでいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院してからの退所が殆どであるが退所後ご本人やご家族のご要望があれば同法人の有料老人ホームに転所して頂いている。身近に頼れる方がいない場合など支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話・情報等から思いや意向の把握に努め「申し送りノート」に記入して、職員間で共有、思いや意向を叶えるように努力している。また、サービス計画作成時でのモニタリング等にて、要望・意見などをお聞きしサービスに反映させている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の情報・基本情報・看護サマリー等、ご本人・ご家族の意向をお聞きした上で見守り・介助を行っている。評価表を作り経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活パターンを把握し、出来るところを見極めながら、自立に向けた支援を行っている。小さな変化も気付けるよう職員間で情報を共有し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に一度介護計画書の見直しを行い、ご本人・ご家族に説明し、同意・署名をして頂いている。介護計画書には、ご本人・ご家族・担当介護職員・看護師・その他職員の共同と医療の記録・介護記録等から課題を導き出し、介護計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様個別のファイルを作成している。バイタル表に体温・血圧・脈拍・食事・排泄回数・入浴・NS処置・水分補給量・睡眠状況・医療指示記録・経過観察などの記録を職員間で情報を共有し、実践や介護計画書の見直し等に活用している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助や買い物、ご本人の要望による外出など必要に応じ柔軟に対応するよう努力している。コロナ禍でなかなか対応できないことも多かったように思います。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年2回(9月・3月)の消防訓練に消防署と中村防災の協力を得て行っている。地域の行事参加はできませんでしたが炎上太鼓を招いたり祭りの花火を皆(施設の窓から)で見ることができました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医療機関に継続して受診出来るようにし、医療との連携を図っている。体力や状況によって往診のできる協力医療機関に変更して頂くこともある。結果も手紙・面会時・電話等で、ご家族にお知らせしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、ご利用者に異常があった場合、昼夜問わず看護職員に報告し、対応して貰っている。毎日バイタルサインのチェックを行い、異常の早期発見に努め、24時間体制で看護職員に報告・相談し、適切な医療が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の医療機関へ看護サマリー等情報提供を行い、病状説明を家族と一緒に聞くようにしている。また、日頃の様子を詳しく病棟へ報告・不明な点はいつも連絡をと伝えている(NS)。出来るだけ早期に退院できるように、病院関係者との関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に看取りや重度化した場合などのホームの方針を文章で明記し同意を得ている。状況変化の度に看護師が家族に状況説明を行い、話し合いを繰り返す中で重度化した場合の方針の統一を図っている。看護師と24時間連絡が取れる体制が整い、ご本人・ご家族・職員の安心に繋がっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署に講師を依頼し、年1回救急救命の研修を実技を交えて行っていました。がコロナ禍により出来ない状態の中で、急変の対応マニュアルがあり、敏速に動けるよう全職員が周知できるようにしている。なるべく早く看護師に連絡を取り、すぐに指示をもらっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	消防計画に基づき避難訓練を消防署・中村防災立ち合いのもと実施している。自然災害対策をしてマニュアルを作成、年1回見直している。備蓄も行っている。同法人の他の事業所との協力体制が整い、市の消防担当者とも日頃から連絡を取り合っている。防災のために毎日点検を行っている。連絡網では、迅速に伝わるようLINEを使用する。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎日朝礼時に唱和する「岐宿園の理念」「職員の目標」「コミュニケーションの基本姿勢」の中に利用者様に対する接し方が盛り込まれ、接客改善に努めている。個人情報の取り扱いについて入所時に同意書を頂いている。たま、フロアでの個人情報の取り扱いに注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着替えの際などに、どの服がいいか選んで頂いたり、買い物や散歩など、ご本人の自己決定を大切に支援させて頂いているが職員不足やコロナ禍にて叶わないこともあるが理解して頂いている。利用者様との会話を大切にし、自己決定の支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には一日の流れがあり、希望に添えないことがあっても、強制することなく一人ひとり心身の状況を把握、希望や自己決定を大切に要望に答えられるよう努め支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行き付けの美容院や床屋に行きカットや毛染めを希望されたり、園に来て頂いたりし、利用者さまの馴染みを大切にしていたがコロナ禍で変わってしまいました。施設に来て頂くか職員が声かけし、カットや坊主で対応しています。服装もできるだけ希望に沿うよう心掛け、本人様希望の衣類購入の買い物支援や誕生日プレゼントなども行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	令和4年7月1日の朝食より、クックデ이의介護施設用の料理済み材料で利用者様に食事の提供を行っております。食事の準備や片付けができるような利用者様がおられません。味も良く、何よりも柔らかいので歯がない方でもごぼうなど食させて頂いております。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	レトルトでの食材で栄養状態は管理されていますが利用者様の中には、少食・偏食の方がおられ、色々と工夫していますがなかなか食事量やバランスの良い食事にはならず、病院からのエンシュア対応の方などもあられます。一人ひとり合った食事提供に心掛けています。一日分の水分摂取量を計っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ずその方に合った口腔ケア介助・確認を行っている。義歯は夕食後、洗浄剤を使用している。ご自分で口腔ケアをされる方は後で確認を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録を取り、排泄パターンを把握している。トイレの声かけ・誘導・介助、その方に合った介助を行い、習慣化する事で排泄の自立に向けた支援を行っている。出来るだけトイレ使用を心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表に排便の有無・時間を記入し、排泄パターンを知り、排泄後は排尿・排便の確認を行っている。便秘の方には運動やお腹のマッサージ・水分補給を促している。便秘時は看護師に報告し、各自の便秘薬を出して貰っている。水分量もチェックしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴日は決まっているが一人ひとりの希望に出来るだけ沿った入浴時間帯にゆっくりと入浴して頂いている。特に冬場はどの方も浴槽にゆっくりつかって頂いている。場合によっては入浴日以外でも入浴ができるよう柔軟に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンを大切に、休息・仮眠を取り、自由に過ごして頂いている。室内温度調節を行っており、気持ち良く安眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の薬情を個人ファイルに綴り、いつでも確認出来るようにしている。服薬時は本人様確認を確実にマニュアル通りに行うようにしている。処方の変更等は通院・往診後、医療の記録で全職員が確認することになっている。利用者様の症状の変化の確認に努め、些細なことでも看護師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味や特技、楽しいことを把握し、生きがいを感じられる様な支援を心掛けている。洗濯物をたたんだり、カラオケ、散歩・レクリエーション等気分転換を図りながら楽しんで頂けるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今はまだ、コロナ禍で思うように行かないが希望があれば買い物はパオパオ号での購入や必要に応じ買い物支援を行っている。気分転換にドライブで花見を楽しんでいる。自宅に行きたい希望もあるが外出希望に答えられない状況がある。早く、買い物や外食に行けたらと思っています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は預けて頂くのが基本であるが知らないうちに持たれている方や自己責任で所持している方がおられる。希望があれば職員が買ってきたり、パオパオ号で購入したりしている。コロナ禍が収まれば買い物ができることを楽しみにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分で携帯電話を所持し、家族や知人から電話があったり掛けたりしている。「電話を貸して下さい」と言われる利用者様や掛けて欲しいと言われる方は施設の電話を利用してもらっている。手紙のやり取りを支援することもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアにはご利用者様の作品を展示したり、季節感のある飾り付けに心掛けている。共用の場も温度設定に気を付け居心地良く過ごして頂き、浴室や更衣の場の温度やトイレの便座の温度設定・換気には特に注意を払っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コスモスは玄関のスペースが広く日当たりがいいので、外を眺めながら日向ぼっこをし、お話ができる環境作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持って来て頂き、希望があれば模様替えやベッドの配置換えを行い、居心地良く過ごせるよう提案、本人様やご家族と相談している。(ストーブ・冷蔵庫以外持ち込み可)		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には名札がかかり自室が分かるように配慮し、床はバリアフリーでどこにでも手すりがあり、危険物は除き動きやすくしている。職員一同見守り強化し、怪我のないよう努めている。		